研究業績

高齢化社会の保健と対応（第2報）

－老いと死について－

富山県農村医学研究会　越山　健二

はじめに

いわゆる「生老病死」は生あるものの宿命である。しかしながら，今日，この「生老病死」の多くが病院や施設など一部の限局された場面に隔絶され，一般の人には極めて見えにくくなっている。

そのため，老いや病，死に対する対応は，その老いや病，死に直面した人の心情や思い，希望や悲しみに対し，必ずしも十分配慮したものとはなっているとは言いがたい。

一方，今日までの医学の発展は目を見張るものがある。しかながら，多くの国民にとっては医療におけるインフォームドコンセントが必ずしも十分にされておらず，医療に対する根強い不信感が存在することも否定できない。

特に，医療において死は敗北を意味し，助からないと分かっている場合でも，死の直前まで徹底した医療が行なわれる事が多い。しかしながら，我々のこれまでの調査で，ほとんどの者が助からない医療は受けたくないとしており，医療を「施す側」と，「施される側」に大きなギャップが存在している。

また，老いについても，身体的老化については種々に研究が発展しているが，老化を自然現象として捉えるより，病気ととらえる傾向が強い。

今回，老いや病，死が今日最も「集中し」，日々対処している医療を「施す」側に立つ病院の看護職員に対して，自分や家族の病や老い，死に対しての希望についてアンケート調査をしたので，以下に報告する。

調査方法

富山県下の一農村病院（ベッド数281床）の全ての看護職員131人を対象に自分や家族の病気や老い，死について望む事についてアンケート調査を実施した。

また，自分が末期患者となった時して欲しい事，したい事，家族が末期になった時，してあげたいこと，言って上げたいことについて記述を求めた。

さらに，死について自分が死ぬときの希望する情景について記述をもとめた。

結果

以下に各項目に対する回答状況等について述べる。

1．病気の時望むこと

(1) 病気の時の付添の希望の有無

「自分が手術等で1～2週間も動けない時，家族等の付添が必要とおもいますか」に対して，77.9%の者が「しばらくは付き添って欲しい」と答え，特に必要がないがわずか2.3%に過ぎなかった。

同様の質問で，「配偶者や子供，父や母」の場合も「しばらくは付き添いたい」が88.5%であり，「病院で十分に看護がされれば，特に必要とは思わない」の6.1%を大きく上回っていた。

(2) 癌告知について

自分が癌の場合，「どんな場合でも告知して欲しい」と石器行く的に告知を希望する者が56.2%，「助かるようなら告知して欲しい」と消極的な告知を希望する者が17.7%であり，積極的・消極的告知の両者を合わせた告知希望者は73.9%であった。

一方，配偶者に対しては，積極的告知を希望する者は13.3%，子供や両親に対しては5.7%，6.3%に止どまっている。

逆に「告知して欲しくない」は，自分の場合はわずか3.1%であるのに対して，配偶者11.7%，子供は22.7%，両親等は25.8%は告知を拒否する比率が高い。

特に，子供や両親の等の場合は，その時にならないと分からないや，その子やその人のそれぞれによって異なると，迷っている回答が半数前後あった。

(3) 死の直前まで徹底した医療を受けたいか

自分が「死の直前まで徹底した医療を受けたいか」のに対して，「受けたい」と答えた者はわずか4.6%，家族の場合でも「受けさせたい」が6.3%に止どまり，逆に自分が「助からないと思われる医療は受けたくない」が68.7%，家族の場合はさらに比率が高く75.8%であり，延命治療に対して疑問を持っている者の比率が高かった。残りはその時にならないと分からないであった。

(4) 死の床で，家族が「家に帰りたい」と言った時

「家に来ても何もして上げられないので，無理に連れて行きたくない」は，わずか3.9%に対して，「なんとしてでも連れて帰りたい」が51.9%と半数を越えていた。

「その時にならないと分からない」36.4%，その他7.8%であり，これらの回答の付記欄には，医師と相談して体制を整えて連れて帰りたいと記述している者も多く，この回答は心情的には家につれて帰りたいと願望を持っているものが多いと考えられた。

2．医療について

(1) 「3時間待ち，3分診療」との批判に対して

「抜本的に改善すべきだ」とする者が45.9%と半数近くいる一方，「短くても親切にすればいい」と，現状の中でなんとか人間的に対応することで打開しようとする者が35.2%いた。特に問題はないと現状を肯定する者はわずか2.5%に止どまった。

(2) インフォームド・コンセントが十分行なわれていると思うか

「まだ不十分だ」が57.6%，「まだまだ不十分だ」25.7%であり，この両者を合わせて83.3%に及んでおり，医療従事者自身がインフォームド・コンセントの不足を認識している。

3．老いについて

(1) 平均寿命はまだ伸びると思うか

平均寿命が「まだ伸びる」と考える者が37.6%いるが，一方「頭うち」35.2%，「下がる」27.2%と，寿命の伸びはそろそろ限界に来ていると感じている人が3分の2近くいた。

(2) 将来，老人が住みよい世の中になると思うか

「将来，自分が老人になった時，今より住みよい世の中になっていると思うか」との質問に対して，「良くなる」と答えた者がわずかに7.9%，「変わらない」34.1%と対して良くなるとは思わない人が3分の1を占め，さらに「悪くなる」が57.9%と悲観的である者が半数を越えていた。

これは，年金制度の改正，一人ぐらしの増加などに対する漠然とした不安を反映したものであろう。

(3) ぼけた場合

自分がぼけた場合，「家族に迷惑がかかるので，施設に入れて欲しい」が34.1%を占めているのに対して，家族がぼけた時，「施設に入れる」が18.1%に止どまっている。

一方，自分がぼけても「家庭において欲しい」が7.9%，家族の場合「家庭で看たい」が20.5%であり，残り，6割前後は家族の判断にまかせる，その時にならないと分からないと答えており，家にはいたいが，ぼけをかかえた場合の困難状況に対する不安を反映している。

3．死について

(1) 自分の死について考えるか

自分の死について考えることがある者があるが71.0%を占め，多くの者が死について考えたことがあると答えている。これは，これまでの調査対象者の中では最も多い。

また，「いつ死んでもいいと思うことがあるか」では「ある」と「ない」が相半ばしており，死を見取ることが多い現場で，必ずしも，死を身近なものとして受け止めていない者も多かった。

(2) 死後のことについて

「死後，体はどうなると思いますか」では，「死後の世界」に行き，その後の世界を肯定している者が41.1%，「自然・宇宙に帰る」や「消えるのみ」と答えた者が約5割おり，現代科学の認識が，反映している結果となっている。

また，「死後の世界はあると思うか」では，「ある」が51.6%，「ない」はわずかに10.3%，「分からない」が38.1%であった。

さらに，「ある」と答えた者では，「極楽・地獄」など科学的自然観とは，別次元の世界を想定する者が41.1%あった。

(3) 脳死状態になった時

脳死状態となった時，どのように対処して欲しいかとの質問に対して，自分の場合「息のある限り治療を続けてほしい」がわずかに1人，家族の場合も，4.8%に止どまっている。

逆に「生命維持装置をはずしてもらいたい」が，自分の場合は73.2%であるが，家族の場合は26.4%と少なく，自分の延命は望まないが，家族のことでは必ずしも割り切ってはいない。

(4) 献体，剖検，臓器提供を求められたら

自分の体を「献体してもいい」は，わずかに15.6%，家族についても6.9%と少なく，逆に「したくない」が，自分の場合55.5%，家族の場合55.7%と，半数以上が献体する事に抵抗を感じている。

また剖検について，自分の場合「してもいい」が11.8%，家族7.1%に止どまっている。逆に「したくない」が，自分の場合60.6%，家族の場合62.2%と6割以上が死体にメスが入ることを嫌っている。

臓器提供については「してもいい」「したくない」が共に4割程度あり，献体や剖検ほどの拒否的回答は少なかった。

(5) 安楽死，ホスピスについて

安楽死について，「苦しくても自然にまかせる」が16.9%に対して，「必要」と答えた者36.0%と，自然にまかせる者より多かった。

ホスピスは，「必要」と答えた者が82.9%と多くの者がその必要性を認めていた。

考　　察

今回，人生の「老い」や「病」，「死」が集中している現場で働く看護職員を対象に，日頃の業務を離れ，一個人として，自分自身や家族について今日の医療や老い，死についての望む事について調査した。

その結果，病気の時は，家族には付き添ってあげたい，また自分も付き添ってもらいたいとする者が7，8割もいた。このことは，今日医療保険の立場から付添を排除する方向に動いているが，患者の立場に立った時，単なる治療としての看護のみならず，家族の精神的支えや励ましが，医療を受ける側に立った場合極めて重要である事を示している。また，死の直前まで徹底した医療を受けたいかについて，自分も家族のことについても「助からない医療は受けたくない」とするものが7割前後もあり，これは，これまでの同様の調査対象者では最も高い比率であり，医療現場で働く者ほど，今日の終末期の医療の矛盾を感じている。

特に，「末期患者になった時，どんな事をしてほしいか，言って欲しいか」，また「したいこと」について記述で回答を求めた。

その内容の多くは，痛みを緩和するに止め，無駄な治療はして欲しくないとする者が多く，また，死に臨んで，周囲からは特別扱いされず，自然に接して欲しい事，また，側について話し相手になって欲しい，家族と過ごしたい，最後の旅行を楽しみたい等であった。また，今まで世話になった人達に，感謝を述べたいとの思いも多くあった。

また，家族の場合も普通に接したい，付き添ってあげたい，本人の希望を出来るだけかなえたいが多い。また，家に帰りたいと思う時は，どうかして連れて帰りたいと希望している。

自分の死に場所も自宅が3分の2を占め，現在の死に場所のほとんどが病院等施設であることに対して，他の調査対象者と同様，住み慣れた自宅を望んでいる。

最後に，自分の死の情景について「どんな風景をみながら」，「どんな音を聞きながら」，「その他必要な情景」について記述してもらった。

記述した多くの者が，見慣れた山や川，草花樹木，田園風景等の自然の風景を上げ，また，家族の日常会話や，小川のせせらぎ，小鳥の鳴声などが聞こえ，家族に囲まれての最後を迎えたいとしている。

しかしながら，今日の病院での終末医療の姿が必ずしも，これらの情景や条件を重大なことと位置付けられているとは言えず，今後の医療の在り方に大きな示唆を与える内容であった。

ま　と　め

高齢化社会の保健と対応についてこれまで5つの調査を行ってきた。特に，老いや死について関心をもち，貧困の時代から富裕の時代の変化の中で，農村地域の高齢者や青壮年，会社従業員，未婚の保育専門学院生，さらに医療従事者などについて調査を行ない，特に死の願望と実際について調査し報告した。

以下にその概要を述べる。

生きるものは老いと死を避けられない。老いや死は高齢者だけのものではなく，その取り組みはあらゆる階層にとって重要であるが，今日の世相，風潮の中でだんだん見えにくくなっており，老いと死は多くの視界から外れている。老いを老人病として捉えるのではなく，自然現象としての老いの視点が重要である。

調査の結果，高齢者の多くは老いを感じ，死を思い，来世を信じる者も多いが，青壮年や若年者はそれほど深刻ではなく，考えたことがない，分からない等の意見が目だった。

老いは，感覚や運動の衰えから始まり，程度の差はあるが，何れの人にも確実に自覚され，次第に知・情・意などの大脳，小脳など高次の老化へと進展していく。生前，死に対する願望は，ころり，ポックリの死を願い，家族や親族との和合を強く思い，また自然の音を聞き，風景を見ながら住み慣れた自分の家での死を望む者が多い。

生前に死の願望を聞き，その死後，その死

が願望にかなっていたかの調査では，願望と実際のギャップが大きいことも判明し，特に，災害や突然死，癌の末期でのギャップの大きい現実を明らかにする事ができた。

死は前から来るものではなく突然後ろからやって来るものであり，願望や期待通りにゆかない事を知った。一般の人においては脳死や安楽死，ホスピスへの理解が薄く，初歩的な快食，快便，快眠などの知識はあっても実行されず，実行不能な生活環境の中にあり，家庭や職場などにおける環境改善と保健に対する意識改革の必要を感じた。

一方，老いや死を真近にみる事のできる医療従事者では，ホスピスを多くの者が肯定的にとらえている。しかし，同時に一般の人と同様に，病には単なる治療だけではなく，家族の付添を求め，家族の支えや励まし等，心の支えが必要としている。特に，死を迎えての情景では，病院等の冷たいコンクリートの壁ではなく，田園風景等自然の草花や鳥等の鳴声等をもとめ，家族の看取の中での死を求めている。

死は，孤独であり苦痛であり，不安が多いが80才代の高齢者の死は感覚，運動機能の減弱もあり，大脳機能の低下も加わり，平易で安らかな死を迎える多くの人をみる。来世や死後の内容は不明の事であるが，筆者は生物の一つとして生や死は決められた大きな枠の中で営まれているように思うのである。

＜看護職員の医療・保健意識調査＞

A．病気について

1．手術等で1～2週間も動けない時，家族等の付添が必要ですか

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
特に必要でない	3	2.3
しばらくは付き添って欲しい	102	77.9
その時になってみないと分からない	25	19.1
その他	1	0.8
合　　計	131	100.0

(2) 家族の場合

回　　答	人数	率
特に必要でない	8	6.1
しばらくは付き添いたい	116	88.5
その時になってみないと分からない	6	4.6
その他	1	0.8
合　　計	131	100.0

2．癌の告知について

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
どんな場合でも，告知して欲しい	73	56.2
助かるようなら，告知して欲しい	23	17.7
どんな場合でも告知して欲しくない	4	3.1
との時にならないと分からない	28	21.5
その他	2	1.5
合　　計	130	100.0

(2) 配偶者の場合

回　　答	人数	率
どんな場合でも，告知したい	17	13.3
助かるようなら，告知したい	40	31.3
どんな場合でも，告知したくない	15	11.7
その時にならないと分からない	56	43.8
その他	0	0.0
合　　計	128	100.0

(3) 子供の場合

回　　答	人数	率
どんな場合でも，告知したい	5	5.7
助かるようなら，告知したい	14	15.9
どんな場合でも，告知したくない	20	22.7
その子，その子により違う	20	22.7
その時にならないと分からない	27	30.7
その他	2	2.3
合　　計	88	100.0

(4) 両親，祖父母の場合

回　　答	人数	率
どんな場合でも，告知したい	8	6.6
助かるようなら，告知したい	23	18.0
どんな場合でも，告知したくない	33	25.8
その人，その人により違う	40	31.3
その時にならないと分からない	24	18.8
その他	0	0.0
合　　計	128	100.0

3．死の直前まで徹底した医療を受けたいか

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
受けたい	6	4.6
助からないと思われる医療は受けたくない	90	68.7
その時にならないと分からない	31	23.7
その他	4	3.1
合　　計	131	100.0

(2) 配偶者や両親の場合

回　　答	人数	率
受けさせたい	8	6.3
助からないと思われる医療は受けさせたくない	97	75.8
その時にならないと分からない	23	18.0
その他	0	0.0
合　　計	128	100.0

4．あなたの配偶者や両親が入院していて，助からないと分かっている時，本人が「家に帰りたい」と言った場合，どうしますか

回　　答	人数	率
無理に連れて行きたくない	5	3.9
なんとしてでも連れて帰りたい	67	51.9
その時にならないと分からない	47	36.4
その他	10	7.8
合　　計	129	100.0

5．「3時間待ち，3分診療」と言われているがどう思うか

回　　答	人数	率
特に問題はないと思う	3	2.5
短い時間でも親切にして上げればいいと思う	43	35.2
しかたがないと思う	15	12.3
抜本的に改善すべきだ	56	45.9
その他	5	4.1
合　　計	122	100.0

6．インフォームド・コンセントは十分行なわれていると思いますか

回　　答	人数	率
十分に行なわれていると思う	2	1.7
かなり，行なわれていると思う	18	15.3
まだ不十分と思う	68	57.6
まだまだ，不十分だと思う	30	25.4
合　　計	118	100.0

B．老いについて

1．平均寿命はまだ伸びると思うか

回　　答	人数	率
下がると思う	34	27.2
頭打ちだと思う	44	35.2
まだ，伸びると思う	47	37.6
合　　計	125	100.0

2．将来，自分が老人になった時，今より住み良い世の中になっていると思うか

回　　答	人数	率
良くなると思う	10	7.9
変わらないと思う	43	34.1
悪くなると思う	73	57.9
合　　計	126	100.0

3．ぼけた時

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
家族に迷惑がかかるので施設に入れて欲しい	43	34.1
なんとか，家庭に置いて欲しい	10	7.9
家族の判断にまかせる	71	56.3
その他	2	1.6
合　　計	126	100.0

(2) 家族の場合

回　　答	人数	率
家族に迷惑がかかるので施設に入れたい	23	18.1
なんとか，家族で看たい	26	20.5
その時にならないと分からない	78	61.4
その他	0	0.0
合　　計	127	100.0

C．死について

1．死について考えることがあるか

回　　答	人数	率
ある	88	71.0
ない	23	18.5
考えたくない	13	10.5
合　　計	124	100.0

2．いつ死んでもいいと思う事がありますか

回　　答	人数	率
ある	46	49.5
ない	47	50.5
合　　計	93	100.0

3．死に場所はどこがいいですか

回　　答	人数	率
自宅	81	67.5
病院	19	15.8
施設	3	2.5
その他	17	14.2
合　　計	120	100.0

4．死後，体はどうなると思いますか

回　　答	人数	率
自然・宇宙に帰る	27	21.8
死後の世界に行く	51	41.1
消えるのみ	37	29.8
その他	9	7.3
合　　計	124	100.0

5．死後の世界はあると思いますか

回　　答	人数	率
ある	65	51.6
ない	13	10.3
分からない	48	38.1
合　　計	126	100.0

6．前問「ある」と答えた方は，魂はどこに行くと思いますか

回　　答	人数	率
極楽地獄	9	13.2
天国・地獄	10	14.7
霊界・魔界	9	13.2
自然・宇宙に帰る	15	22.1
輪廻する	21	30.9
その他	4	5.9
合　　計	68	100.0

7．脳死状態になった時

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
生命維持装置をはずしてもらいたい	93	73.2
医師の判断にまかせたい	2	1.6
息のある限り治療を続けて欲しい	1	0.8
家族の判断にまかせる	30	23.6
その他	1	0.8
合　　計	127	100.0

(2) 家族の場合

回　　答	人数	率
生命維持装置をはずしてもらいたい	33	26.4
医師の判断にまかせたい	12	9.6
息のある限り治療を続けて欲しい	6	4.8
その時になってみないと分からない	28	22.4
生前の本人の意志に従う	46	36.8
その他	0	0.0
合　　計	125	100.0

8．献体について

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
してもいい	20	15.6
したくない	71	55.5
家族にまかせる	20	15.6
分からない	17	13.3
合　　計	128	100.0

(2) 家族の場合

回　　答	人数	率
してもいい	9	6.9
したくない	73	55.7
その時にならないと分からない	14	10.7
生前の本人の意志に従う	34	26.0
その他	1	0.8
合　　計	131	100.0

9．剖検について

(1) 自分の場合

回　　答	人数	率
してもいい	15	11.8
したくない	77	60.8
家族にまかせる	24	18.9
分からない	11	8.7
合　　計	127	100.0

(2) 家族の場合

回　　答	人数	率
してもいい	9	7.1
したくない	79	62.2
その時になってみないと分からない	36	28.3
その他	3	2.4
合　　計	127	100.0

10. あなたは，臓器提供してもいいですか

回　　答	人数	率
すでに登録している	1	0.8
してもいい	47	36.7
したくない	49	38.3
分からない	31	24.2
合　　計	128	100.0

11. 安楽死について

回　　答	人数	率
必要	49	36.0
苦しくても自然にまかせる	23	16.9
医師の判断にまかせる	6	4.4
家族の判断にまかせる	35	25.7
絶対に反対	2	1.5
分からない	21	15.4
合　　計	136	100.0

12. ホスピスは必要ですか

回　　答	人数	率
必要	107	82.9
特に必要とは思わない	9	7.0
分からない	13	10.1
合　　計	129	100.0